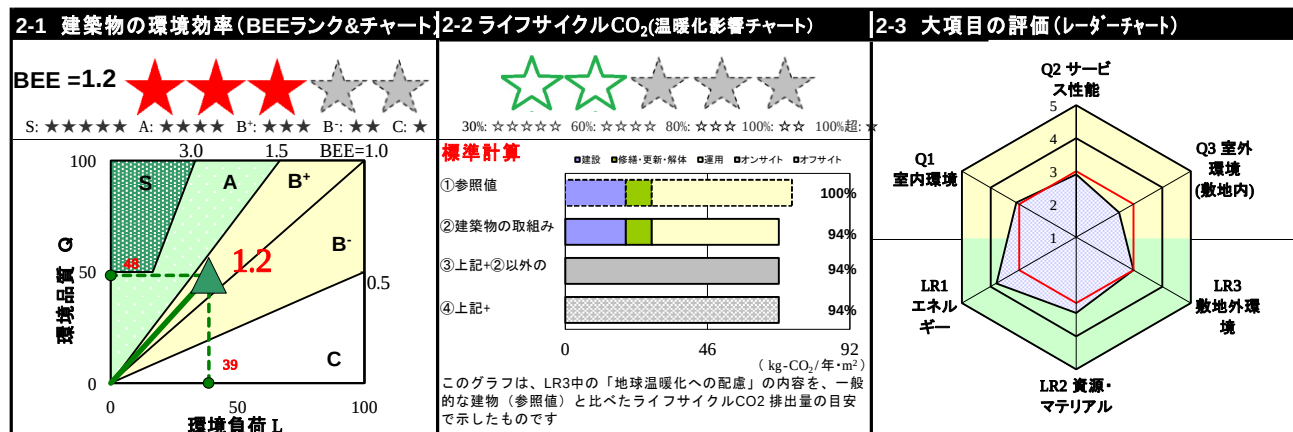


CASBEE®-建築(新築)

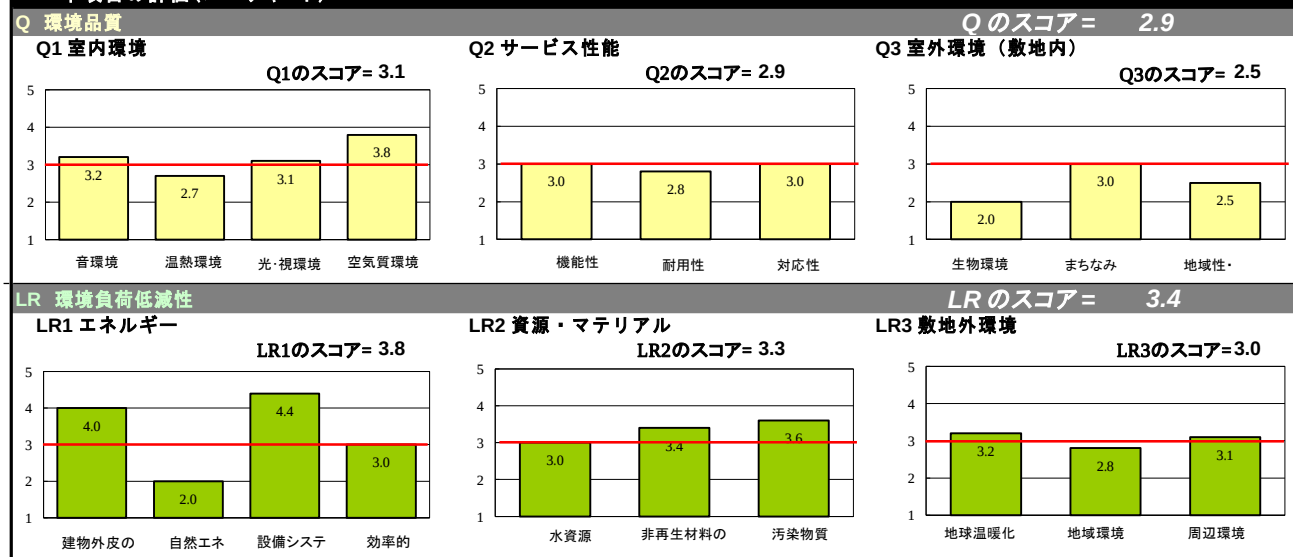
評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)吹田市江坂町5丁目計画 新	階数	地上10F
建設地	大阪府吹田市江坂町	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	72 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年8月 予定	評価の実施日	2025年3月31日
敷地面積	572 m ²	作成者	株式会社エム・ケイ設計事務所代表取締役社長
建築面積	296 m ²	確認日	2025年3月31日
延床面積	2,228 m ²	確認者	株式会社エム・ケイ設計事務所代表取締役社長



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合		その他
敷地内には可能な限り緑地を設けたほか、敷地入口付近に樹木を計画することで、周囲に溶け込む建物となるように配慮した。		特になし。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
自然光を十分取り込むよう計画し、自然エネルギーの活用により環境負荷の低減を図るとともに、快適な室内環境の確保に努めた。	維持管理に配慮した設計、耐用年数の長い配管材料を採用するなど耐用性、信頼性に配慮している。	特になし。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
外皮性能の向上を図るとともに、LED照明を採用し、エネルギー消費の低減に努めている。	省資源化に配慮し、躯体以外にはリサイクル材を採用したほか、断熱材にはODPが低いものを使用した。	ライフサイクルCO ₂ を低く抑えることにより、長期にわたり環境負荷を軽減し地球温暖化の防止に与えられる建物となるように配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		(仮称)吹田市江坂町5丁目計画 新築工事						
建設地		大阪府吹田市江坂町						
用途／区分		集合住宅						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						B+	
①	CO2削減						3	
②	みどり・ヒート アイランド対策						3	
③	断熱性能						4	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分					4	
④	エネルギー消費性能						4	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分					1	
		非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分	評価対象外				評価対象外	
⑤	自然エネルギー直接利用						—	
	再生可能エネルギー	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—
	利用施設の導入状況	太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—

エネルギー消費量の報告				対象外
-------------	--	--	--	-----

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮	3.2	3
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出	2.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3. 2 敷地内温熱環境の向上	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環境 2. 2 温熱環境悪化の改善	3.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制	4.0	4
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化	4.4	4
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用	2.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	—

その他		
先進的技術の導入	技術の名称	考慮事項
特に配慮した事項		